

請 願 書

鳩山由紀夫内閣総理大臣殿

年 月 日

日本解体法案である「国立国会図書館恒久平和調査局」について反対いたします。

【反対理由】

1) 国内唯一の国立図書館である国立国会図書館には政治的中立を望む為

国立国会図書館の役割は「国会の活動（立法、行政監視）に、立法府自前の客観的な資料に基づいた調査と情報が必要だから」という点にある。国立国会図書館という調査局は内閣と同等の実力を持ち、全国の関係機関全てに協力要請が可能で、提出資料の可否は館長が独断で処理出来るとなっている。この国立国会図書館に外国人の識者が関わるとなると、反日的思想から資料の隠蔽・改竄が行われても国会図書館の決定となり、審査が難しくなる。又、問題のある学説が国立国会図書館の資料として確定されてしまうと、それを覆す事は困難となる。

歴史的判断に際しては、飽くまでも事実に基づいた専門家の手による資料の解明を希望し国立国会図書館は政治的に中立であるべきである。

2) 恒久平和調査局の主な調査内容が偏向しており、中立性に欠けている為

表向きは日本の史実の調査としていながら、内実、恒久平和調査局の調査は「旧日本軍の行為により特定国に生じた損害の究明」となっている。本法案により特定国の“学識者”が調査に関与する事が可能となれば、日本に対する謝罪と賠償請求を前提とするものに調査内容が偏向しかねず、自虐史観の補強、固定を図る可能性が大いに懸念される。これは公正さ中立さから大きく逸脱しており、結果国家の弱体化に繋がる恐れがある。

3) 恒久平和局設置に伴い、現存する文献等が廃棄される懸念がある為

多くの歴史学者の多年にわたる研究の下、現在の政府見解による複数の「談話」や恒久平和局と意見を異にする歴史観・文献等が既にあるが、2項で述べたように、恒久平和局の性質は自虐史観を前提とした調査が主な目的であると見受けられる為、それらが廃棄される虞がある。多くの国民が国立国会図書館に求める最大の役割は、あらゆる書籍、文献、資料等の保管であり、これが損なわれる可能性がある。

上記3項目の理由により反対します。

住所：
氏名： (印)
年齢： 歳